

みみさき

4号

美咲町議会だより

2006年5月10日発行



幸せいっぱい 夢いっぱい(チェリーウエディング 4月9日)

主な内容

- 最重要課題は行財政改革と少子化対策 —— 2~3
- 18年度予算134億円決まる(常任委員会報告) —— 4~7
- 合併2年目に向けて 11人が町政を問う —— 8~18
- まちづくり調査研究特別委員会の報告 —— 23
- 議会を傍聴して —— 24

少子化対策に努力

18年度 町長の所信表明



真剣な審議 行財政改革審議会

行財政改革
将来に向け

安心してできる行財政を

厳しい財政状況の中、行政の効率を高め、町民の要望に応えるため、財政の健全化に取り組む。安心したまちづくりに向け、改革の体制を整える。

行財政改革審議会ですべての項目を検討、定期的に改革の執行状況を点検し、きめ細かい取り組みをした

い。

産み・育て・住みやすい 全国に誇れる 少子化対策

国・県ですること、美咲町でできる政策と役割がある。
少子化対策担当課を設け、子育て支援に効果的な対策をとる。
産みやすい、育てやすい環境づくりを行い、魅力を感じる生活支援を取り入れた若者の定住促進を図り、全国に誇れる少子化対策に取り組む。



すくすく育て(かめっこ保育園)

目指そう元気な

協働のまちづくり

住民が主役の元気な協働のまちづくりは、町民と行政が互いに支え合い、協力し、問題解決にあたる。十八年度の協働のまちづくりの中心は 地域の福祉

リーダーの育成 活発な地域活動を推進。
地域に愛着が持て、安心して暮らせるまちづくりを目指す。

最重要課題 行財政改革と

3月定例会（3月6日から17日）

学校教育 子どもは 町の宝

本年度から「美咲中央小学校」も開校した。学力の向上、豊かな心、健やかな体力の育成を目指し二学期制を導入、ゆとりある教育を行う。また、コミュニティースクール事業を進め、地域・家庭・学校が一体となった教育力向上に努める。



のびのび元気に（美咲中央小学校）

安心・安全な

まちづくり

みやぎネット

30億円

十八年度の重要な生活環境整備は、安心・安全なまちづくりに、情報通信基盤の整備（ラストワンマイル事業）を行い、高齢化に備えた福祉にも利用予定、情

報格差の解消を図る。災害時に備えて、中央・柵原地区に、防災無線屋外放送塔を約二十カ所設置。無線とみさきネットによる屋内外で対応する。

産業 特産品づくり 集落営農の推進

農林業が基幹産業であるが、高齢化、担い手不足で厳しい現状。解決には知恵が必要である。集落で考え、力を出し合う「集落営農」の推進を図りたい。特産品の育成はもとより、観光資源の活用と農家と商工業者の連携・協力で町の特性を生かしていきたい。

意識改革を 職員に徹底

倫理・公正・平等を基本理念に、透明性の高い、分かりやすく、満足度の高い行政を目指す。

合併した三町の職員の間、考え方に想像以上の差があり、意識の統一が必要。職員が変われば、町も変わる。提案、実行、事業評価、コスト意識のある経営感覚を身につけた職員の育成に努める。



好評の黄ニラそば（紅そば亭）

臨時会

三月三十日

十七年度一般会計補正予算は、主に、地方交付税の二億五千七百万円の増加。歳出で、二億八千万円を財政調整基金に積み立てるもの。

職員・管理者の 減給処分

合併初年の行政の中で、三町の短期合併のほころびが、建設工事、下水道工事などで問題が発生。

責任の明確化、当事者責任の所在を正すため、処分が行われた。担当職員は、文書訓告から最高減給10%三カ月まで、義務違反、信用失墜、監督責任が理由。町長・助役も減給10%、5%二カ月で引責した。

奥村町長

エラーのない、町民の負担に応えた執行に努力する。新年度に向け、心新たに職務に励み、信頼の回復に努める。

最少の予算で最大の効果を

18年度予算 134億円(一般会計)

84億円(28の特別会計)決まる

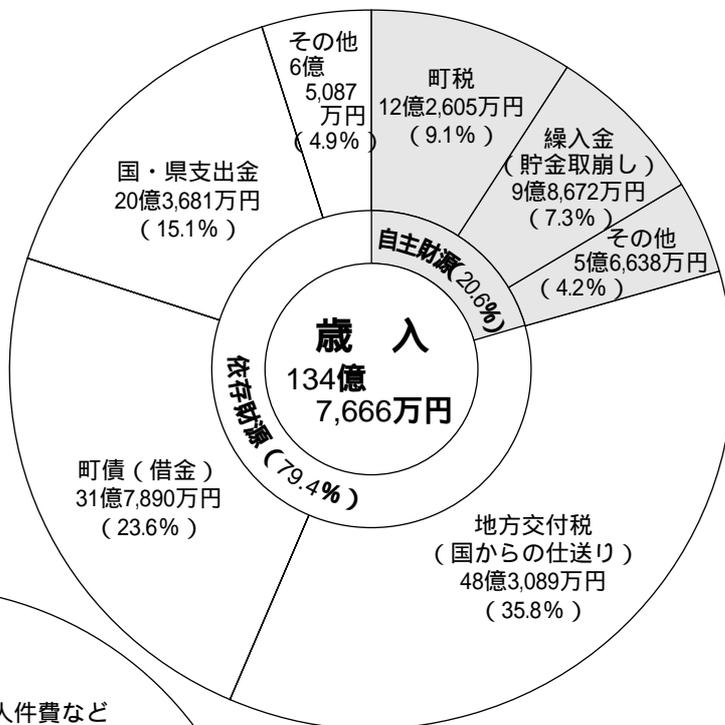
三月定例会に提案された議案は、条例五十一件、予算五十四件、その他十三件の百十八件。審議の結果、条例四件は賛成多数、その他案件は全会一致で原案どおり可決した。

編成方針

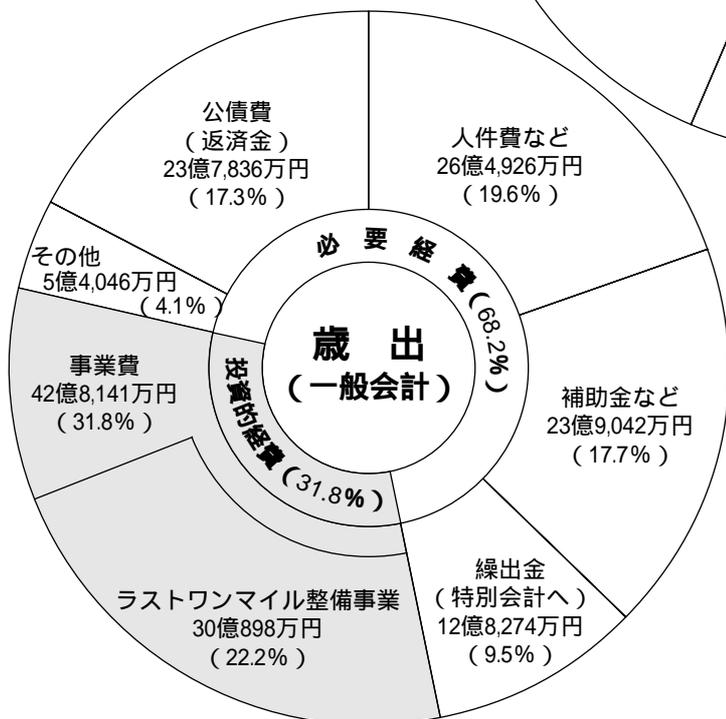
十八年度予算編成は、適切な行財政運営で持続可能な財政構造への転換と財政健全化を図る。簡素で効率的な行政の確立で行政改革を推進し、最少の予算で最大の効果を求めた。また、地域経済の状況を考え、個性と工夫に満ちた魅力ある地方の形成、少子・高齢化対策などの地域課題に取り組み、住民福祉の向上に努めた予算とした。

特別会計 (二十八会計)

独立採算が基本の特別会計だが、制度上・政策上などの理由により、十二億八千万円を一般会計から繰り入れている。



目玉は
ラストワンマイル整備事業



特別会計の予算内訳

項目	金額
町営バスなど3運行事業	6,480万円
国民健康保険	16億3,300万円
老人保健	26億5,023万円
介護保険	15億1,342万円
簡易水道 8会計	12億 45万円
下水道 3会計	12億8,634万円
その他 11会計	1億2,994万円
28特別会計合計	84億7,818万円

常任委員会報告

ラストワンマイル整備に30億898万円

総務常任委員会

条例改正など六十二件、請願陳情三件、十七年度一般会計補正予算一件、十七年度特別会計補正予算四件、十八年度一般会計当予算一件、十八年度特別会計当初予算五件、合計七十六件の議案が委員会に付託され、審査の結果全議案を承認した。

平成十八年度一般会計総務費は、前年比192%の増額。主たるものは、ラストワンマイル整備事業である。消防費は、前年比1.9%の増額。主たるものは、防火水槽整備、全団員への消防服貸与費である。元気なまちづくり推進基金は、合併特例で将来のために、四年間で十六億円積立てるもの。

主な事業

(千円以下切捨)

一般会計	コミュニティ助成事業	1,350万円
	集会施設整備事業	4,700万円
	集会施設整備補助金	300万円
	地域活性化事業交付金	2,509万円
	コミュニティセンター運営費	530万円
	町有バス運行対策事業	2,146万円
	ラストワンマイル整備事業(みさきネット)	30億 898万円
	消 防 費	3億2,117万円
	元気なまちづくり推進基金積立金	4億1,000万円
	公債費(返済金)	23億7,836万円
特別会計	町営バス運行事業(津山-柵原)	1,480万円
	津山・西川線共同バス運行事業(チェリーバス)	1,510万円
	旭川ダム沿線バス運行事業(さくらバス)	3,490万円



江与味コミュニティセンターを現地確認する総務委員会メンバー

問 旭・柵原地区にそれぞれ旧村単位に拠点となる施設を五カ所ずつ、コミュニティセンターとして位置づけ、運営費を予算化している。その内訳は、中央地区にも位置づけが必要ではないか。

答 運営費は、光熱費、建物火災保険料、合併浄化槽管理費、中央地区では、老人憩いの家などがある。今後、他の施設との整合性も考慮

問 吉ヶ原地区生活排水路の管理を指定管理者が行うのはなぜか。

答 当地区は、住宅が密集、地形も平たん、生活排水路もなく環境衛生上、地域から整備要請があり、旧柵原町において、下水管を埋設したものの、管理は地元で行っている。

本年度から公共下水道事業化となり、供用開始に伴い、当排水路は中止とする。

十七年度一般会計補正予算の歳入では、町税五千五百万円、地方交付税一億三千三百万円、町債一億七千四百万円など追加し、基金からの繰入金減額一億円など、一億三千六百万円を追加し、歳入総額百二十二億六百万円とするもの。

歳出の主なものは、財政調整基金へ積立二億九千七百万円、教育施設整備基金積立五千万円などである。

四月四日、旭・柵原地区のコミュニティセンター十カ所および吉ヶ原地区の排水路を現地確認した。

17年度一般会計補正
1億3,587万円追加
総額122億663万円

柵原鉱山資料館の

入場者倍増

民生教育常任委員会



人気上昇中の柵原鉱山資料館

平成十七年度一般会計補正予算の歳入の主なもの、使用料六百八十五万円増は柵原鉱山資料館の入館料。関西方面などへのPRにより、一万三千人の予定が一月末現在二万九千人と増加したものである。十八年度も続けてPRを行うよう意見を付した。

エイコスタジアム観覧席設置工事は、設置場所の調整で、十八年度工事となる。夏の大会までに完成。教育費の六百十一万円は、開校の美咲中央小学校

へ引越し費用と校門に防犯カメラを設置する。その他は事業確定により精査したものの。全会一致で承認した。

国民健康保険特別会計補正予算

九百十五万円を追加し総額十六億四千六百六十三万円とする。療養給付交付金六百四十六万円減。共同事業交付金千五百八十万円増

一般会計から千二百九十五万円を繰り入れ、基金の取り崩し二千万円を減額した。

延滞金の徴収を年度内百万円を目標としている。

老人保健特別会計補正予算

六千六百七十九万円の減額、総額二十七億千七百四十三万円。医療給付費が六千八百七十七万円の減、高額医療費が百四十六万円の増である。

住基ネットワークシステムのカードの発行

数は、

六十人程度。年間五、六人発行している。

老人保護措置費は十六年度と比較してどう

か。十六年度は七千八百六十四万円。十七年度は八千七百四十三万円程度の見込み。

大井和診療所の利用者数は、

月四回の診療で一回平均十六人である。

特別養護老人ホームでの順番待ちの実態は、

一人の方が数力所申し込んでいる現状もあり把握できていない。

主な事業	(千円以下切捨)
乳幼児医療費(義務教育終了まで)	6,204万円
ごみ処理費	2億 810万円
ふるさと生きいきづくり事業	1,106万円
若者定住策	1,084万円
児童福祉	552万円
児童館運営管理	1,142万円
環境監視員(20人分)	34万円
校舎の耐震診断	808万円
外国人英語教師(3人分)	1,552万円
スクールバス購入費	1,281万円
総合型スポーツクラブ	340万円

子育て支援に全力投球

平成十八年度一般会計



いただきまあ〜す(かめっこ保育園)

厳しい財政状況の中、若者が子育てしやすい支援が盛り込まれている。(表参照)

児童館が旭地区に続いて中央地区に四月オープンした。地区のバランスを考慮し柵原地区にも対応してもらいたい。

柵原地区で十八年度立ち上げる総合型地域スポーツクラブにも補助。

火災の見舞一戸二万円、復興支援金三十万円が予算

化。三地区のゴミ処理の場所

が違い、ゴミ袋代の格差や不燃ゴミの出し方も違う。旭地区の分別・回収の方法など参考に方向を決めてほしい。

柵原老人憩いの家の管理費五百万円は旧三町での整合性を考え一定の方向で調整するよう意見を付して、全会一致で承認した。

戸籍住民基本台帳に外国人登録ができるようになった。津山市(旧久米町)に放置されているシュレッダーダストは十八、十九年度で県が撤去する。

愛育委員会、栄養委員会の制度の統一など報告を受けた。

介護新特別会計

介護サービス事業特別会計は総額千四百八万円。新しくできた会計である。中央保健センター内の包括支援センターで行う要支援一、二のケアプランニング(介護計画・指導)などを行う。

自然と清流を保ち快適生活 下水道整備に10億円

産業建設常任委員会

十八年度予算は、所管の課ごとに予算を審査した。農林水産業費は、前年対比8・9%の減額。中山間地域等直接支払事業、田園自然環境保全整備事業、ふるさと農道緊急整備事業などが減額。

土木費は、同21・1%の減額。町道舗装事業、道路改良事業、橋梁改良事業などが減額。

上下水道費は、同10・5%の増額。簡易水道への繰り出し、広域水道企業団出資金および負担金などが増額。

商工費は、同21・8%の増額。亀甲駅舎管理委託費、特別会計への繰り出しなどが増額。

三月十日、県道新設に伴い、旧県道の認定が必要となった大井和地区の町道道路線を現地確認した。

また、同地区で十六年度から三力年で事業を行っている田園自然環境保全整備事業の確認もした。「紅そば亭」にも立ち寄り、黄ニラを持参し、新たな献立を提案した。

問 ピオーネ生産拡大対策事業の新たな取り組みは。

答 労力の分散を図り、所得向上のため鋼材を利用し、独自で建設する低コストのハウスに取り組み。

問 農業用機械施設のシステマ化事業の採択基準は。



田園自然環境保全整備事業を視察（大井和地区）

答 県が審査。経営規模が十ヘクタール、五年以内に集落営農を予定のところを重点地域とする。

問 イノシシなど鳥獣害対策の補助金は。

答 集団でイノシシ防護柵をすると、トタンはm当たり二百五十円。電気柵はm当たり百二十五円。単独では、補助率が低下。

問 津山地区農業共済事務組合負担金は今までないことだが。

答 財源移譲により、国から町に、町から組合へ負担金として支出。道路台帳は整理できているか。

答 旧町で作成したものを使用。統一すれば多額の経費が必要となる。

問 ため池の管理は十分にできているか。

答 管理シートなどで報告を受け管理。シートの回収は百パーセントではないが、天気予報で豪雨の予測もつくので連絡を密にしたい。

問 公共下水道事業の新規区域は。

答 柵原の吉ヶ原地域など四地域。認可業務、最終処理場の用地確保から取り組んでいく。

問 旭西川上地区簡易水道設置は、陳情を採択した。今後どのように進め

ていくのか。
答 平成十九年度事業認可申請に向けて業務を開始していく。

平成17年度 補正予算

今回の補正予算は、事業確定により不足が生じたものに対する増額と特別会計への繰り出し。事業が確定せず年度内執行が見込めないもの、および不用額が生じるものを減額。

年度内に工事が完了できない公共下水道整備事業など六件を次年度工事することを承認した。

主な事業	(千円以下切捨)
津山地区農業共済事務組合負担金	3,681万円
中山間地域等直接支払事業	1億7,391万円
ピオーネ生産拡大対策事業	1,077万円
農作物鳥獣害防止対策事業補助金	689万円
有害鳥獣駆除	349万円
ふるさと農道緊急整備事業	1億5,000万円
田園自然環境保全整備事業	2,510万円
中山間地域総合整備事業	3,390万円
畜産振興事業補助金	556万円
森林整備地域活動支援交付金事業	2,089万円
新築木造住宅普及促進事業	350万円
農業公社補助金	917万円
商工会補助金	1,202万円
各種イベント(春・夏・秋・冬)	1,632万円
亀甲駅舎管理委託	491万円
道路維持管理費	3,282万円
町道改良事業	2億4,292万円
町道舗装事業	4,320万円
岩鼻河原線など道路整備	2億3,400万円
王子橋整備負担金	7,600万円
美作岡山間道路建設事業負担金	1,068万円
合併処理浄化槽設置事業補助金	7,336万円
広域水道企業団出資金及び負担金	1億3,090万円
簡易水道特別会計繰り出し	4億 841万円
下水道特別会計繰り出し	1億5,864万円
災害復旧費	7,541万円

増額	ピオーネ生産拡大対策事業	246万円
	水田営農推進事業	59万円
	森林災害復旧事業	223万円
	下水道事業特別会計繰り出し	4,796万円
減額	簡易水道事業特別会計繰り出し	3,409万円
	中山間地域等直接支払事業	2,599万円
	間伐材搬出促進事業	300万円
	町道改良・舗装事業	2,795万円

問 一般質問

Q 町の将来はようになる

A 節約し めりはりのある施策で



三船勝之 議員

問 交付税は十七年度約五十五億円、十八年度は四十八億三千万円と落ちこんでいる。平成十八年度補助金の減額が心配されるが見通しはどうか。国庫補助金は約十二億円だが、その事業内容は。

町債（町の借金）は三十一億円で公債費（借金の返済）が二十三億七千万円である。見返りが多いと言いつつながら借金が増えている。町税は十七年度実績の5%減額の予算と思う。税収の見通しはどうか。中学校の整備事業も計画される中で、基金を貯めることも念頭に置く必要がある。

答

島田総務二課長

行財政改革の中で補助金も削減の対象になっている。交付税も年々下がっている。合併した市町村には幾らか加算の予定もあるが算定の判断が難しい。国庫補助金はラストワンマイル事業など、できる限り住民の要望に添えるよう生活基盤の整備をしたい。基金残高は二十二億円になる。特に合併特例で四年間、元気なまちづくり推進基金として毎年四億一千万円積む。



町の将来を検討する 行財政改革審議会

町債は県とも協議し、財政健全化計画を策定し、ラストワンマイルなどに計上している。公債費は平成二十二年に二十四億二千万円の支出でピークを向えると推測される。建設計画、振興計画、過疎計画に基づき、時代の要求にも取り組む。

答

形井税務課長

十八年度の税収見込みは、十七年度の徴収実績をもとに算定し、固定資産税、法人・町民税で十二億二千六百万円の見込みである。

答

奥村町長

健全な財政が一番だが、基金を積むことが目的ではない。合併した町のバランスをとりながら、生活基盤の整備が遅れているものは積極的に取り入れ、安心・安全な町づくりを進める。無謀な計画はあってはならない。住民の皆さんに、まず

新聞などで給与カットが話題だ。行財政改革を含め、町長を先頭にそのような考えはあるか。職員の不祥事も多くあった。処分はするか。

答

奥村町長

給料の問題は、生活給でありパフォーマンスで給料に触れるべきではないと思う。それ以前に合理化である。十人で行っている仕事を九人にする、無駄な残業をしないなど、削るところから始めるべきだ。度重なる不祥事に対し深くおわびを申し上げる。処分は誤解を招かないよう十分説明し、内容を見ながら慎重に行う。

A その前に 合理化

Q 賃金カット するか

幸せの先取りをしていたことが大切だ。節約できるものは思い切って改革し、めりはりのある施策に取り組んで行きたい。

町政を

Q 学校二学期制のメリットは

A 子どもと教師にゆとりを確保



松島 啓 議員

子どもが増加。先生は精神疾患も年々増加している。子どもも、教師もゆとりがなくなっているのが現状である。

問 平成十八年度から町内の全小・中学校で導入する「学校二学期制」。県北初の試みである。百年余りの間続いてきた三学期制からの大きな転換、思い切った決断だ。教育的価値が高い改革だと思う。導入の経緯、メリット・デメリットとその対策は。

その対策として、本町では昨年七月から検討し、県内外の実施校を参考に研究、町内一斉実施が校長会で決まった。説明は、一月から各校で行い、了承をいただいた。

答 最近、特に言われている学力・体力の低下。さらに、不登校、学校に来ても落ち着いて勉強できない

中力教育長

また試行期間がなく、保護者や教師への説明、理解は十分なのか。

メリットはたくさんある。特に授業時間が、小学校で十五時間、中学校で二十時間以上多く確保できる。デメリットはないと考えている。中学校の定期考査は少なくなるが、平素のテストで十分対応できる。

子どもと教師が時間的、精神的なゆとりの中で「知・徳・体」の全面から「生きる力」をはぐくむことが期待されている。



二学期制でゆとりを（中央中学校）

コミュニティスクールとは

問 中央中学校が、平成十八年度から導入する「コミュニティ・スクール」とは。

中力教育長

文部科学省の実践研究指定校は、全国で七校。その中の一校で、県内では二校目である。

この制度は、保護者や地域住民が、一定の権限と責任を持って、学校運営に参画するもので、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める新しい仕組みだ。

学校の教育環境の整備、学力、家庭の学習力、地域の教育力など高め、教職員意識の変革と保護者の高まりも期待している。

今後、町内各校に広げていきたい。理解と支援をお願いしたい。

Q 少子化に歯止めを

A 対策課を

設置

問 乳幼児医療費の助成などの子育て支援や居

住環境の整備など近隣市町村と比べ手厚い施策を行っている。

しかし、人口減少、少子化は危機的状況だ。即効性の高い短期的な対策と、五年、十年後には必ず実る、中・長期的な対策が必要。町長の考えは。

奥村町長

四月から少子化対策課を置き、政策を打ち出していききたい。結婚のチャンスをつくる、不妊治療費の補助などを検討している。

また、アイデアの募集や若者を中心にした実態調査を行い、今後の施策に反映してほしい。

答 保育料の免除や給食費の無料化も検討してほしい。

奥村町長

いろいろなものを無料化する生活支援プランは、行ってきたが、幼児福祉はまだ不足している。限られた財源の中で、子どもの遊び場の充実も必要ではないかと考えている。

一般質問

Q 町民の目線で改革を

A 職員の意識改革に努める



大神式之 議員

問 行財政改革は、町民の目線から役場の無駄を省き合理化の徹底を図り、町民から信頼される役場づくりと、町民の見える行政をどう実現するのか。

庁舎内の清掃は職員の手でやる、地域のボランティア活動に積極的に参加する、一人出張は一人にする、各種委員の随行は取りやめる、広報紙も一本化する。各種団体への補助金も、暮らしにかかわる補助金は出すが、そつでない補助金は削減する。住民サービスを一層強めるために職員の時差出勤、地域に帰って出張役場、分

任出納員の資格を与え、税金、手数料などの納付は職員の自宅でもできる。これが町民に役立つ役場づくりと思うが。

答 奥村町長 役場とは読んで字のごとく、役に立つ人が居る場所である。町民が居るから役場は必要、だから職員も必要となる。

誰のために仕事をし、誰のために汗をかくのか、常に職員に言っている。何が無駄で、どこが悪くて何を直すのが行政改革である。職場やトイレの掃除も職員の手で、また住民と触れ地域を知ること也非常に大切なことだ。すぐやる、必ずやる、できるまでやる、この精神で頑張る職員の改革を進めたい。



整備が進む吉井川右岸(久木)

Q 協働のまちづくりに

地区担当を置き

A 検討したい

問 町では、自主自立を基本として行政と対等な関係を築く住民自治、地域の課題は地域内で解決する住民が主役の元氣な協働のまちづくりを目指す。そのため本庁支所に地域担

当者を設けて協働のまちづくりを定着させていく、この提案をどう考えるか。

答 奥村町長 地域振興課の中に地区担当を置く、それも一考だと思つ。十分検討したい。

問 町では、自主自立を基本として行政と対等な関係を築く住民自治、地域の課題は地域内で解決する住民が主役の元氣な協働のまちづくりを目指す。そのため本庁支所に地域担

どうなっている
自主防災組織

問 安全安心なまちづくりに、自主防災組織の育成は急務だ。現状はどうか。自主防災組織リーダー研修会に行政は参加したか。

答 奥村町長 防災計画を十七年と十八年で行い、自主防災組織の活動にもしつかり取り組んでいきたい。

答 島田総務二課長 組織の研修であり、町の担当者は参加していない。

問 内水対策は

A 勉強し対応

問 安心なまちづくりのために、吉井・吉野川の河川改修の早期実現と、内水の対策についてどう考えるか。

答 奥村町長 内水対策で、久木、塚角地域の問題も聞いています。十分勉強しながら対応したい。

Q 美咲流「結婚への挑戦」その後は

A 町内外で一回ずつ出合いの場を提供



岸本清治 議員

問 昨年実施した出合いの場、美咲流「結婚への挑戦」はその後どのようなになっているか。

少子化対策を進める上にも一番必要なのが男女の出合いである。今後、どのように取り組むか。

答 松島政策企画二課長 昨年十二月十日に実施した美咲流「結婚への挑戦」。年末にも食事会を行った。四十二人の参加で五組のカップルが成立した。その後は把握していない。

十八年度は、町内外で一回ずつ出合いの場の提供ができればと考えている。

から児童館までは、町営の「かめつち。バス」や、スクールバスの空き時間を利用して運行するよう検討している。

十八年度、児童館の運営は、町で行う。

Q 職員研修でレベルアップを

A しっかりと研修する

問 合併後一年が経過し問題点も浮き彫りにな

りつつある。職員の意識改革、レベルアップのためにも十八年度で研修など考えているか。

答 奥村町長 十七年度は、合併のため二十人ほどしか研修していない。それも、専門的分野業務・事務的な研修に時間を費やした。

十八年度は、研修目標を高いところに置き、職員のマナーなどを重点に計画する。出張する時間のロス、経費もかかるので、できれば講師を招いて、しっかりと職員研修する。

Q 障害者自立支援法の説明は

A 制度が複雑個々に対応

問 四月から行われる障害者自立支援法。説明を具体的にを行ったのか。十月から始まる地域生活支援事業の給付・相談支援など、町としてどのようにするのか。障害者、保護者の立場に立った支援の取り組みを。

答 松岡保健福祉二課長 障害者自立支援法は、制度内容や手続きが複雑だ。近隣の市で説明会が行われたが、逆に混乱を招いた。広報で知らせたが、一律にはいかない制度なので、一人一人に対応していく。

地域生活支援事業は、町が主体であるが、国から細かな指示がなく、町としても方針を出せない状況だ。今後、政令などが決まり次第、進めていく。

A 学校と連携運営は町で

Q 加美児童館の運営方法は

問 十八年度から美咲町中央小学校の開校、併せて加美児童館も開館する。共働が多い中、利用に寄せる期待は大きい。学校との間に非常に距離があり連絡方法および運営方法はどのようにするのか。

答 奥村町長 下校時には、学校との連携を図りながら連絡体制を確立していく。小学校

の連携を図りながら連絡体制を確立していく。小学校



二人の門出 さくらも祝福(三休公園内チェリーウエディング)

一般質問

緑花公園内に 民俗資料館を

民俗資料は大切 検討する



下山和由 議員

問 緑花公園内に、美咲中央小学校も開校、周辺整備も進んでいる。今後どのように整備していくのか。

香花温泉、ほほえみの湯が住民の活性化の場所となる配慮も必要。

グラウンドゴルフ場も完成したが、利用と管理はどうするのか。

また、緑花公園の中に文化ゾーンとして、民俗資料館を建設して文化遺産、民俗資料、古文書などを各地区から収集、寄附など募り一堂に展示することも住民の交流に意義深いものと考えるが。

答 奥村町長 「ほほえみの湯」は平成十六年十一月にオープン。利用者は一日平均五十一人、そのうち町内の方が四十三人である。町内の方を優先し、町民の料金は大

人三百円、六十五歳以上、障害者、小中学生は二百円、幼児は無料にしている。シャトルバスも運行しており、好評を得ている。

グラウンドゴルフ場は当初の計画が関係団体との協議の中で変更となった。芝の状態も不十分なので、一年間は町で管理する。

美咲町全体の民俗資料館は、これからだんだんと歴史が失われていく中で大事なこと。十分検討していきたい。



好評の香花温泉「ほほえみの湯」

Q イベントで活性化を

A 地区に一つは残したい

問 昨年は、国体でイベントは中止。年に一度住民が集うことは地区の活性化につながる。花火大会は中央地区で定着のようだが、産業祭は柵原地区で十八年度は開催できるか。

答 奥村町長 イベントは各地区に一つずつ残すことが基本的な考え方である。

春は旭のさくらまつり、夏は中央で商工会主催の花火大会、秋は柵原の星のふるさとぼっぼまつり(産業祭)、冬は中央のイルミネーション。

産業祭は今回予算は計上していないが、秋まで時間があるので予算化してもいいと考えている。

また三月の柵原星の里マラソンも予算化しているが、盛り上がりは今ひとつの声を聞く。産業祭との整合性も議論してもらいたい。

Q 黄ニラの栽培拡大を

A 売上一億円が特産品の条件

問 合併して一年が経過。住民も美咲町民として意識が保たれつつある。旧町の特産物を美咲町の特産物として市場へのアピール、販売拡大に行政支援し、生産者に意欲をもたすことも大事である。

特に、ピオーネは岡山県も「ピオーネ王国おかやま」で推奨品目でもあり、特産

物として期待も大きい。柵原地区の黄ニラ栽培は黒ビニールをかけるだけでなく、遊休地の利用、高齢者向けの品目として有望。中央・旭地区でも栽培推進を望む。

答 奥村町長 特産品の条件は、一品目十ヘクタール、販売金額一億円が必要と考える。

ピオーネは町全体で栽培面積三十二ヘクタール、販売金額一億六千万円。最終目標を五十ヘクタール、三億五千万円。ハウス栽培も取り入れるなど町も支援している。

黄ニラは坑道で栽培することが特産品と考えていた。坑道は冬期だけで、あとは黒ビニール栽培となれば農家に呼びかけてみる。

Q 自然災害の危機管理と
自主防災組織の確立を

A 防災カメラの設置と
自発的な防災組織の充実



貝阿彌幸善 議員

主防災組織率23・2%である。

問 人為的な災害は、事態対処法、国民保護法が施行、町条例としても提案、可決された。自然災害の危機管理について、災害に強いまちづくりは、行政のみでは無理があり、自主防災組織の確立が急務である。

また避難困難者への対応は。

答 自主防災組織の確立は急がれている。

組織率は消防白書によると、全国64・5%、岡山県43・6%、美咲町40・9%、そのうち自治会単位での自

内での対応は。

問 避難困難者などの対応は、自主防災組織の確立で、自助、共助の必要を感じる。

専門的な分野から風水害震災などに対する危機管理

は、南海沖地震、東南海沖地震が、三十年以内に高い確立で予測されている。町

答 奥村町長

風水害は、吉井川、旭川両流域とも県で危険個所に防災カメラを設置し県庁に集め光ファイバで、各役場、自衛隊、常備消防などに生でデータを送る伝達システムを平成二十年までに整備する。

地震は予知が困難であり、耐震補強のできていない学校などの公共施設が一番心配である。順次耐震検査を考えている。

問 専門的な職員を配置した危機管理は。

答 奥村町長

消防防災担当職員は、本庁一人、支所には係を一人配置。研修、訓練し対応したい。

Q 保育料は
高くないか

A 5階層までは
安い

問 保育料は、国に準じた区分により設定されている。

三歳児以上の保育料が若干高くなっているのでは。

答 奥村町長

保育料は国に準じた所得割の七階層である。美咲町は、高所得の六と七階層が高く、一から五階層は

近隣市町村より安い。今後は少子化対策の中で、近隣市町村との政策の違いがはつきり分かるような、思い切った政策も考える。

Q 公共下水道の
今後の政策は

A 加入・利用を
呼びかける

問 公共下水道事業で加入率を上げる政策、加入金優遇措置をとったが現在の加入状況と今後の政策は。

答 奥村町長

中央地区公共下水道の加入率65%、利用率43・8%である。下水道整備区域内には、加入・利用を呼びかける。加入促進に政策的判断が非常に難しい。



手から手へバケツリレー防災訓練

一般質問

Q まちはみんなを守る
消防団員の確保は

A 女性消防団員の
活動に期待



最上 忠 議員

員数が八百七十三人。国からも団員の増員は言われている。若者が集うことが、地域のコミュニケーションの場、情報交換することで防災の声かけにつながるなど大切。

団員確保には苦勞しているが、条例定数の改正も必要と考える。そういう中で拠点整備・待遇改善を考えていく。

女性消防団員も、地元消防団の中で一緒に活動する方向でいく。

OB団員には団員減少のおり、ぜひ現役で活躍をお願いしたい。

Q 犯罪のないまちづくりを

A 地域のつながりを
強めることが大切

登下校中の子どもが狙われたり、農家が丹精した農作物が大量に盗まれたり、お年寄りが振り込め詐欺に遭ったり、世界一安全と言われた農村で、これまで考えられなかったような犯罪が相次いでいる。

食生活が欧米化したのと同じように、人々の生活スタイル全体が欧米化し、犯罪発生率も欧米並みの水準に近づきつつある。

犯罪がこれほど多くなか

う地域づくりは必要。少子高齢化で年齢構成、人間の社会構成バランスが崩れている。近所同士の絆も薄くなってきている。

地域のつながりを強めることが大切と考える。

Q 18年産米の生産調整は

A 旧町単位で推進する

新たな米政策がスタートとして二年が経過。十七年産の実績と今年産の取り組みは、また、次期対策への基本的な考えは。

池上産業一課長

水の配分面積に対する

88・8%、旭地区94%、柵原地区96・6%。産地づく

水田農業推進協議会は十八年産までは、旧町単位で行い、十九年産からは農業者と農業団体が米の需給調整をすることになる。



火点は前方の標的（第1回美咲町消防操法訓練大会）

問 若者の大半が加入する消防団。火災・自然災害・行方不明者の捜索など、事が起きるといつも消防団。負担も大きい。一方で、親睦の場だったり楽しくもある。少子高齢化の大波で、地域社会の安全を維持してきた組織が、全うできなくなりほしくないか心配である。消防団員の確保は。女性消防団員も家に帰れば色々仕事もあり、活動に参加するのも難しいが、単なる男性団員の代わりだけでなく、女性だからできる活動に期待したい。

答 奥村町長 消防団員の現状は条例定数九百三十人、在籍団

が、消防団OBにも、ボランティアで活躍の場も考えられないか。消防団員は活動内容に比べると報酬もわずが、住民税の税制優遇措置をするのも待遇改善となるが。

災害補償の問題もある



安藤暢昭 議員

保育士の7割が 嘱託職員は問題

Q

雇用形態で 保育の質は変わらない

A

問 町内三つの保育園(所)で働いている保育士の約七割が嘱託職員の不安定な身分である。

嘱託職員も同じ保育の仕事をしている。子育て重視の立場、保育内容の充実、職員間の団結などから、正職員として採用すべきではないか。

答 奥村町長

保育士は、十八人が正職員、五十人が嘱託職員である。単純に割った一人当りの経費は、約六百六十三万円と二百六十八万円。保育園全体の経費は、年間三億五千万円、保護者の負担する保育料は、七千三百四十七万円。全員正職員とすれば、経費が六億円近くになる。

本採用し身分を保障することに反対はしないが、財政の問題、負担する保育料の問題も考える必要がある。

保育の質が落ちていれば大変な問題であるが、現在本採用と嘱託職員の保育の質が違う状況にない。

嘱託職員からみれば、つらい部分もあるが、納得し

て応募してもらっている。財源が許すなら、能率、能力差をつけることも考えてみたい。

子育て 支援センターを 柵原地区にも 設置したい

Q

A

子育て支援センター

問 は、中央、旭地区に各一カ所設置され、育児の相談・指導、地域子育てサークルの育成などに大きな役割を果たしている。柵原地区にも設置すべきと思うが。

答 奥村町長

核家族化の中で子育てなどの不安を相談する所がないと言われ、子育て支援センターは、母親の悩み解消に大切と考えている。中央、旭地区の両支援センターとも活発に利用さ

れ、柵原地区にも必要と考えている。柵原地区では、幼・保の一元化の問題、一保育園・

二幼稚園の位置的問題もあり、これらも同時に検討したい。設置までは、保健福祉課で支援する。



ともだち50人できるかな(藤原保育所)

許すな 単県医療費 公費負担制度の改正

Q

町村会でも反対の声上げる

問 県独自の医療費公費負担削減が発表された。住民や美咲町への影響はあるか。

答 松岡保健福祉二課長

県の医療費公費負担制度の補助率が急に変わった。この制度も五年後には廃止される。

住民の福祉の増進を使命とする自治体の価値が問われる制度である。県に対して改善反対の意思表示を。

は負担増となる。町では十八年度千二百万円、十九年度二千二百万円程度の負担増になる。

答 奥村町長

町村会でも反対の声を上げるよう十分話しているが、県知事が補助の上積みはしないと切り切っている。望みは薄い。

北和気美術 館の評価は

資料集めに 敬意

Q

問 北和気美術館は、地域コミュニティーの

も反映して、管理運営は地元です。この美術館の評価をどのようにしているか。

答 福井助役

地域要望で老人憩いの家から小さな美術館として八年経つ。絵画、民俗資料など約千点が展示されている。地道な資料集めに敬意を表し、地域に根差した生涯学習に活用してほしい。

一般質問

結婚推進員の制度が必要では

個人情報で難しい問題である



岡田 壽 議員

問 少子化が国内全体の問題、対応はまず結婚からと考える。町内にも結婚したいが、相手の見つからない状況がある。

答 個人情報の問題もあるが、結婚推進員、相談員制度を設け、情報を交換、紹介し結婚を手助けする必要があるが。

長 高森男女共同参画課

少子化対策は重要課題である。最近では晩婚化が進み結婚年齢も男性二十九・四歳、女性二十七・六歳。出生率も一・二六と少子化も進んでいる。

結婚には物心両面の支援が必要であるが、結婚推進員制度は、プライバシーの問題もあり、町で組織は設けていない。

答 奥村町長
旧町で結婚奨励金を出し、結婚を推進していた。

最近では、個人情報の問題がいわれ、行政が結婚推進員を設け情報を提供することができると難しい問題である。

お互いに結婚の世話などがけて紹介する必要はあると思う。



満杯の若者定住住宅「夢清水」(西川)

集落に住む若者住宅に援助を
定住の効果を検討したい

問 集落から若者が流出すると集落機能、支え合いも失われる。公営住宅

やアパートに住む若者には援助があるが、生まれ育った集落に定住する若者にはない。若者の持ち家の新築政策にも助成を。

答 奥村町長
他町から転入する若者だけを優遇する政策ではなく、水道料、保育料など一般的な助成に取り組んだ旧中央町の経緯がある。

旧旭町では、若者の持ち家の固定資産税の一部補助の制度があった。定住が促進できるのなら検討の材料かと思う。

干害対策を望む
各種の事業はあるが地元負担が必要

問 昨年の稲作は大変な干害を受けた。特に、旭地区で被害が大きかった。

作物に水は大切、天水に頼る農業では、後継者も集落営農も期待できない。他作物の転換にも水は欠かせない。水資源の確保を望むが。

答 池上産業一課長
中央地区には土地改良区でダムを造り水を確保しているが、老朽化、過疎高齢化で、維持管理に苦慮している現状である。

水のある、ない区域を分け、作物を考えるのも干害対策になる。

答 清水建設課長
ハード面では農林水産事業で幅広い事業ができる。干害対策のため池新設も可能。しかし、巨額の事業費と地元負担も必要である。要望があれば、事業の調査検討する。

Q 職員のモラルの向上を

A さらに精進指導する



山本宏治 議員

べきだ。

勤務中の喫煙モラル・時間など工夫をされたい。十七年度希望退職を募つたと聞くが十七年度以降の定年退職、希望退職はどのようになっているか。

奥村町長

携帯電話など文明の利器をうまく使い仕事の効果を上げ、有効に利用することは大切だと思う。礼儀作法などマナーが乱れていると思つている。さらに指導していきたい。

パソコンのセキュリティの問題も講習会を行い、暗証番号を使用したり、自宅にパソコンを持ち帰らないなど、徹底したい。喫煙もマナーを守つていくよう指導する。

問 庁舎内に花を飾るなど親しみやすい環境づくりに、職員の意識改革も感じられる。町長の職員指導の効果もなく、無契約工事など、単純なミスか、体質なのか業務管理ができていないのではないか。
答 仕事中にメールのやりとりをし住民の方に嫌な思いをさせたと聞く、携帯電話は重要な連絡の手段であるが、合併後一年が経過し緊張感の無さが露呈。パソコンから情報の流出など、毎日のように報道されている。情報化時代であり、機密保護など周知徹底を図る



庁舎を自主的に掃除をする職員

Q 少子化の秘策は

A 秘策に期待してほしい

十七年度の定年退職者は二人、希望退職者は五人の計七人。十九年三月定年退職者七人、希望退職者は十四人。八年後までに約五十一人の定年退職者がある。

関連担当課の少子化問題の対応策を聞きたい。

答 山本政策企画一課長 若者の出会いの場を提供するシステム、家庭で育児する親を励ます育児サポートシステム、育児休暇が取りやすくなるよう事業所に働きかけるなど、地域ぐるみ、企業ぐるみで支援していきたい。

答 竹嶋住民二課長 子どもの多い世帯など優遇される税制、女性が出産後も職場に復帰しやすい制度、出産費用の無料化など考えられる。地域ぐるみで子育て支援に当たりたい。

答 高森男女共同参画課長 少子化の主な原因は、仕事をしながらの子育てが大変、教育にお金がかかるなど。笑顔で暮らせるまちづくりを目指し、プランづくりをスタートさせている。

答 奥村町長 根気強く出会いの場をつくっていくのも大切だと思つて。子育て支援に秘策を考え持っている。期待してもらいたい。

問 少子化問題には、特効薬はない。町では乳幼児および児童、生徒の福祉向上を目的に医療費六千二百万円を予算化している。保育所、支援センターも若い子育て中の親にとって大きな支援である。十八年度は担当課を明確にし、少子化対策を考えるとこのことが秘策は。
答 若者の要望でイベントを企画し、出会い、ふれあいの場をつくってはどうか。

一般質問



寒竹 壽 議員

町長の施政 財政改革の指針は 無駄を省き 財政健全化を図る

問 合併後、最初の議会で町長の施政方針は第一に行財政改革と表明し、さらに新年度も同一の方針を掲げている。

合併初年度は制度の統一化、補助金の標準化などのため、削減や廃止も、これらは旧三町一体化の措置である。

新年度の予算も財源不足のなか大型予算である。特に下水道は今日の生活様式、環境観点からも必要な施策ながら今後も相当額の予算投入を要する。特に本年度は光ファイバ敷設事業に三十億円の大規模予算も計上。これらのことから財政改革の意味合いが不自然ではないか。町長の言われる財政改革の指針を問う。

答 奥村町長
行財政改革は私の大きな柱。行政と財政を改革、これは双子で一对のもの。

住民への生活基盤の整備、社会資本の充実が必要。しかし、本当に住民のためになる事業がいくらあってもどこに無駄があるのか見直すのが、行財政改革であると思う。

今の仕組みは複雑に二重構造となっており、無駄な仕組みは直し、必要に応じてメスを入れる。行政も無駄をなくし組織のスリム化、財政の健全化を図る。そうしたものが指針で目標である。

Q 県道の未改修区間 早期整備に努力を A 事業決定は 地元の協力が不可欠

答 清水建設課長
県道大戸上・中央線、柵原大戸側三百メートルが未改修、十七年度に県から計画ルートが示され、関係者もおおむね同意。事業費が一億円以上は県の事前評価が必要。事業着手は二十年度から、完成は二十二年度の予定と聞いている。

県道百々・櫻村線、百々地内は交差点から百メートル区間を本年度整備。吉留地内の工区、本年度に平面測量を実施、ルート検討とのこと。本工区も一

問 合併後、柵原地区から中央地区には県道大戸上・中央線が幹線道として職員を始め多くの人が利用している。しかし、一部未改修で幅員狭小、蛇行し見通しも悪く危険、事故も多発。

合併で早期改良を期待していたが県の整備計画は



早期改良を望む県道大戸上中央線（大戸上地内）

億円を超すと事前評価の対象となり事業決定には用地が不可欠である。

Q 生活道の舗装補修を

A 材料を支給
受益者で施工

問 旧柵原町では、生活道の舗装工事は町で行った。穴埋めなどの補修も一部には自宅まで町道の認定もある。町道同様、生

活道も舗装の補修を行ってほしい。

答 清水建設課長
生活道の整備には事業費二百万円を限度とし受益者一割負担で行っている。舗装補修など申請により材料の支給制度がある。施工は地元で行っていた。

Q 福祉バス
運行方針は

A 標準化し
運行する

問 核家族・高齢化で病院などへのサービス業務とし福祉移送バスも運行されているが、旧町ごとに異なり中央地区では行われていない。生活の足となる福祉バスの運行方針は。

答 野木保健福祉一課長
旭地区は保育園送迎の空き時間を利用、バス二台で二路線を従来どおり運行。中央地区は新年度からスクールバスの空き時間を利用し五路線を運行。柵原地区は改め運行、標準化を図る。

条例53件承認可決

今定例議会に提案された条例は新規10件、改正39件、廃止4件、計53件が上程、うち29件は地方自治法の改正に伴い、町の公共施設管理を指定管理者に行わせるための改正。国民保護法制定に関する4件の条例に反対の意見もあつたが、その他は全会一致で全議案承認。

美咲町国民保護協議会条例

武力攻撃事態などにおける国民の保護のための措置に関する法律に基づき、組織および運営に関し必要な事項を定めるもの。(賛成多数)

美咲町国民保護対策本部及び緊急対処事態対策本部条例

前項に掲げる法律に基づき、本条例に定める各々の本部に関し必要な事項を定めるもの。(賛成多数)

美咲町非常勤職員等の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

国民保護協議会の設置に伴い、委員報酬の額を定める。(賛成多数)

美咲町職員の給与と条例の一部を改正する条例

一般職の職員の給与に関する法律の改正に伴い条例の一部を改正するため。(賛成多数)

美咲町行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例

町への申請・届け出などの手続を情報通信を利用して行うことができるようにし、利便性の向上を図る。

みさきネットの設置及び管理に関する条例

本年度より計画している光ファイバ網の設置および管理に関し、必要な事項を定めるもの。

美咲町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例

地方公務員法に基づき人事行政の運営等を公表により人事行政運営における公正性および透明性を確保する。

美咲町公益法人等への職員の派遣等に関する条例の一部を改正する条例

市町村職員退職手当組合の廃止および市町村総合事務組合加入に伴い条例の一部改正したもの。

美咲町特別会計条例の一部を改正する条例

介護保険事業の法改正により、介護サービス事業特別会計を設置した。

美咲町教育施設整備基金条例

教育施設の建設および整備に要する費用の財源に充てるための基金を設置する。

美咲町営住宅管理条例の一部を改正する条例

公営住宅法施行令の一部を改正する政令の施行に伴い条文の整理のため。

美咲町公共下水道条例の一部を改正する条例

下水道法の一部を改正する法律の施行に伴う条文の整理のため。

美咲町公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例

地方自治法の一部改正により、公の施設管理について指定管理者の指定手続きなどの条例を制定するため。

美咲町大坪和コミュニティ・スクール設置及び管理に関する条例を改正する条例

地方自治法改正により公の施設管理を、指定管理者に行わせるため、条例改正するもの。

前条のほか28条例が同法の改正に伴い今議会で改正され、その数も65施設に及んでいる。

美咲町児童館条例の一部を改正する条例

児童厚生施設として、加美児童館を設置するため。なお、当館は保育園を改装したもの。

美咲町北和気郷土資料館条例

郷土資料、民俗等に関する資料を保存公開する。

美咲町北和気郷土資料館条例

なお、当館は老人憩いの家を整備、民俗資料を展示。

美咲町食堂かめつち。設置及び管理に関する条例

中央運動公園来場者の癒やしと交流を図るため設置。

美咲町コミュニティセンター条例

旧村単位を基礎とした地域づくりの拠点施設を設けるもの。

美咲町立公民館条例の一部を改正する条例

五館をコミュニティセンターとし、四館を公民館として活用するもの。

美咲町ふるさと生きいき条例の一部を改正する条例

少子化対策の一環として、出産祝い金の贈呈対象者の範囲を拡大するもの。

美咲町介護保険条例の一部を改正する条例

介護保険制度の改正に伴い、保険料率などを改正するもの。

美咲町勤労者憩いの研修集会施設条例を廃止する条例

北和気コミュニティセンター位置づけのため廃止。

このほか、三条例を廃止した。

完成した加美児童館を確認する議員



完成した加美児童館を確認する議員

組合議会報告

組合議会の主な提案事項は17年度補正と18年度予算

津山圏域衛生処理組合

二月十五日開催。四議案が提案、原案どおり可決。
十七年度補正予算は、法律の改正により汚水の専門的な検査・管理を向こう三年間民間に五億八千万円で委託するための予算確保。
十八年度予算
五億九千三百万円

歳出は、衛生費五億二千万円。その内、民間への運転管理委託料は一億七千五百万円、修繕費一億三千万円。

美咲町の分担金は、建設費割り、維持管理費割りで約三千万円。

次に、三月二十七日開催。一議案提案、原案どおり可決。

包括運転管理を五億六千七百万円でアタカメンテナンス(株)に三力年の業務委託をした。

津山地区農業共済事務組合

二月十七日開催、十一議案が付議、可決する。
十七年度補正予算は、支払金額の確定により、四千七百万円減額するもの。
養蚕に関する条例は廃止する。

十八年度予算

五億二千百万円
農作物・果樹共済無事戻しは、交付対象年度十五年から十七年とし、千二百七十万円以内、交付予定時期は十八年八月。財源は特別積立金を取り崩す。

十八年度事務費賦課金は、水稲・麦共済十アール当たり三百五十円、家畜・果樹・畑作物・園芸施設は、共済金額の千円当たり乳用牛十円、肉用牛六円、果樹・畑作物五円、園芸二円から四円とする。

職員定数条例一部改正は、十九人を十八人に改める。

監査委員 玉置嘉昭氏
(鏡野町)

津山圏域消防組合

二月十七日開催、四議案

が提案、原案どおり可決。
十七年度補正予算は、六千三百万円追加、二十四億二千六百万円とする。主な歳出は、人件費である。

十八年度予算

二十三億六千万円
歳入の主なものは分担金、負担金が二十二億二千三百万円(美咲町分は二億二千万円)、歳出は消防費十九億九千二百万円である。

定年退職増に備えて、職員定数を、二百四人から二百二十二人と改正。新人研修も必要であり、前倒し採用とする。

法改正により、新築住宅には、火災報知器の設置が義務付けられる。

津山広域事務組合

二月十七日開催、議案三件提案、原案どおり可決。

十八年度予算

四千二百万円

歳入の主なものは、分は千六百万円(美咲町分は百七十万円)、諸収入千七百万円。歳出の主なものは、総務費二千三百万円、嘱託職員の報酬、労働費千七百万円などである。



利便性が向上した 津山広域バスセンター (JR津山駅前)

バスセンター完成

広域事務組合で昨年来工事着工していたが、三月二十五日完成した。津山広域バスセンターを津山駅前の核として発展させていきたい。

ふるさと振興事業特別会計予算は一千万円と定める。

歳入の主なものは、バス乗り入れ負担金八百万円。歳出は、バスセンター管理業務委託料七百八十万円。

津山圏域西部衛生施設組合

二月二十日開催、議案四件提案、原案どおり可決。

十八年度予算

三億五百万円

歳入の分担金割合は、津山市29・1%、鏡野町45・6%、美咲町25・3%。
歳出は、炉運転業務委託三千六百万円、公債費六千三百万円、焼却灰の運搬処理委託料二千二百万円などを計上。

勝英衛生施設組合

二月二十一日開催、議案三件提案、原案どおり可決。

十七年度補正予算は、

予備費から財政調整基金として三百万円を積み立てる。

十八年度予算

二億六百万円

美咲町の分担金は、三千七十七万円である。

久米老人ホーム組合

三月一日開催、議案四件提案、原案どおり可決。

十七年度補正予算は、

百五十万円減額し一億五千四百万円とする。主なものは民生費百六十万円減。

十八年度予算

一億四千二百万円

歳入の主なものは、負担金一億二千万円（美咲町分は五百十万円）。
病弱者加算の廃止、人件費増、国の措置費未決定などにより、財政調整基金から千四百万円を繰り入れた。特殊勤務手当（全職員月額四千円支給）を廃止した。

柵原吉井特別養護老人ホーム組合

三月二十七日開催、五議

案が提案、原案どおり可決。職員給与に関する条例改正は人事院勧告に伴うもの。

十七年度補正予算は年度未確定による調整。

十八年度予算

二億三千四百九十九万円

前年度より七百十四万円の増加。公債費が増えたため。美咲町の負担金は千三百四十一万円。介護保険法改正により介護給付費が減額。利用者の負担増となる。



かめっこ保育園児とイモヅルの植え付けをする静香園生



リサイクルプラントを視察する議員（中部環境施設組合）

柵原、吉井、英田火葬場施設組合

三月二十七日開催、三議案提案、原案どおり可決。

十七年度補正は、

二百万円減額、使用料の減による。

十八年度予算

三千九百万円

歳入の主なもの、負担金二千六百万円（美咲町分は千百万円）、使用料千百万円。歳出は、総務費九百万円、火葬場施設費千六百万円、葬祭センター運営費四百七十万円、公債費七百四十万。

中部環境施設組合

三月二十九日開催、四議案提案、原案どおり可決。

十七年度補正、

二百万円増額、総額五億八千万円とする。

十八年度予算

五億五千二百万円

歳入の主なもの、分担金五億三千万円（美咲町分は四千八百万円）。歳出は、衛生費二億三千万円、公債費三億二千万円などである。

住民が参加する広報に

広報編集特別委員会報告

見出しに工夫を

第六十三回町議会広報研究会が二月十六日、十七日、東京で開催され、議会だより「みさき」のレベルアップを目指し参加した。

初日は、文章の表現・表記、企画力・編集力、写真の撮り方の三点の研修があり

わかりやすい文章、読みやすい表記に
住民に議会であったことをどのように伝えるか



熱心に研修する広報編集特別委員会メンバー

情報の重要度で取捨選択しているか

写真と記事の相乗効果、訴える写真、意図と合った写真に、と
広報の基本を学んだ。

住民の声と顔が出る 常設企画を

二日目は、みさき議会だよりを含め七町の議会広報を広報コンサルタントの深沢徹先生に診断していただいた。

評価の基準は、基本姿勢と企画、文章・用語・表記、編集・印刷技術の三要素で評価と批評を受けた。「みさき議会だより2号」の評価

大見出し、見出しに本文中の出身を出すこと。事務的な見出しは固い印象を与える。工夫をすること。

認定・可決の議決内容（全員賛成？多数決？）を書くこと。などの指摘を受けた。

全体的には表紙をはじめ文字組みもレイアウト（構成）も良く、読みやすい紙面。写真の活用も良い。

二、三面の大見出しが固いのが惜しい。欲を言えば、全面二色にすれば満点。

住民の声と顔が出る常設企画があれば、間違いなくAクラスの広報との評価を受けた。

指摘された点は、改善し読みやすい親しまれる議会だよりを目指し努力する。

なお、住民参加の企画も委員会検討し、早急に常設企画を立ち上げたい。ご協力をお願いします。

陳情審査

敬称は省略させていただきます。

◆非核平和美咲町宣言の採択を求める請願書

原水爆禁止美作地区協議会代表理事 下野 真
世界中で平和も強く求められており全会一致で採択とした。

◆「公共サービスの安易な民間開放は行わず、充実を求める意見書」提出に関する陳情

日本国家公務員労働組合連合会中央執行委員長 堀口 士郎
財政も厳しいが、サービスの低下などの心配もある。要望は理解できるので

◆「市場化テスト法案」に関する意見書採択の陳情

日本自治体労働組合総連合岡山県本部執行委員長 妹尾 幸敏
今後、国の動向も見極めながら慎重な対応が必要。要望は理解できるので

◆新たな「食料・農業・農村基本計画」の具体化に関する陳情書

食とみどり・水を守る岡山県農会議議長 鳥越 八郎
中山間地域の農業は零細、集落機能の維持のためにも支援は必要であり採択とした。

◆WTO・FTA交渉に関する陳情書

食とみどり・水を守る岡山県農会議議長 鳥越 八郎
外国産農産物の輸入拡大により日本農業へ大きな影響を与えるのは必至であり稲作の崩壊にもつながり採択とした。

◆長島・光明のハンセン病療養所を地域に開かれた医療・福祉施設として存続・発展させることを求める陳情

全日本国立医療労働組合長島支部支部長 岡田千賀子
現地調査した結果、療養所の入寮者は高齢化している。地元瀬戸内市の医療施設としての方向性も示されていない。要望は理解できるので採択とした。

◆西川上地区簡易水道施設設置に関する陳情

清染ひまわりの会会長 高橋 肇
現地を確認した。水道普及率百パーセントが望まれる。採択とした。

◆単県医療費公費負担制度の見直し（案）の撤回の意見書提出を求める陳情書

岡山県労働組合会議議長 妹尾 幸敏
NPO法人岡山県腎臓病協議会理事長 橋本 則夫

◆単県医療費公費負担制度見直し（案）に関する要望書
前二件は、県からの補助が削減され、市町村の負担増も心配される。患者の自己負担の増額など診療の継続も懸念される。採択とした。

報告

まちづくり調査研究

特別委員会

本委員会は議員全員で構成、主な課題は情報の過疎化と難視聴解消のために取り組んでいるラストワンマイル事業、協働のまちづくり、町営バス運行など、昨年十二月以降三回開催、審議の要旨を報告。

地区交付金に意見噴出
道路管理の取り扱い
防犯灯

十八年度から制度化を予定していた地域活性化交付金は区長に説明された後、本委員会にも担当課が説明。制度の内容について様々な意見が噴出した。交付金には地区活動費のほか防犯灯一灯に千円、道路管理費(草刈りなど)に一km当たり一万四千五百円を加え地区に交付。地区は

電灯料の支払い並びに地区内の道路管理を行うものと定めている。これまで旧町の対応は異なり一体化の難しさが露呈。委員会として道路管理費は地形・世帯数などにも配慮を。なお、防犯灯につ



汗また汗 草刈り作業(中地区)

柵原東幼稚園を
保育所へ
改革案を審議

いては一部了解を得られていない。町では四月からの執行を延期し七月に実施の意向。さらなる説明努力されるよう執行部に意見を付した。

柵原地区の藤原保育所は定員四十五人に五十人保育。なお、津山市などへ広域保育も多く保護者から拡充要望の声。一方、同地区の東幼稚園は近年の少子化から園児も減少。このことから、東幼稚園を西幼稚園に統合し、東幼稚園を保育所とし保護者の要望に応えたいと、執行部から提案。委員会としては、準備の都合もあり十月までに結論を得るよう調査・審議する予定。

町営バス
柵原・津山線

津山市との
共同運行
協議中

柵原津山線町営バスには津山市民も約二割の乗客がある。津山市との共同運行化を図り、統一した料金体系にするよう町執行部に要請している。

美咲町・津山市との共同運行は協議中。関係民間バス会社とは関連する事項をおおむね同意しているとの報告を受ける。

ラストワンマイル加入金
一世帯一万円に
全世帯加入で情報共有化を

情報の難視聴解消と高速化など多くのメリットがあるラストワンマイル事業。町では告知放送および美咲町チャンネル放送も計画。多額の公費投入につき、町内の多くの世帯が加入し、情報の共有化が大事であるとして加入金軽減の意見が大勢を占めた。加入促進を図るため、三万~三万五千元としていた加入金の軽減を町長に要請。協議の結果、一万円に。なお、同事業でのIP電話は担当課で研究課題とした。



問われる保育(柵原東幼稚園)

議会を傍聴して

3月定例会の一般質問（3月7日、8日）を8人の方が傍聴されました。何か気付かれたこと、議会のあり方など、ナマの声をお伺いしました。今後の議会活動に参考とさせていただきます。4人の方の声をお届けします。

多くの町民の傍聴を望む

議会は、地元の問題を議論する場ではありませんが、なかなか足を運ぶことは…。でも、やはり生の声を聞くことで、意識することができると、傍聴は大切なことだと思います。もっと多くの町民の参加があればいいのとも思います。

答弁をされる課長さんで質問の意味・意図を読み取り聞き取れていない方がおられました。一般職員はもとより、というか、役職にある人はもっともつと視野を広く、耳を大きくして、勉強すべきだと思います。よく勉強し、町民の声を聞いておられる方もたくさんおられる中でひとりでも及ばない人がいたら、すべてが悪いほうに見られます。

美咲町の将来を考えて

美咲町になってから、この町はどうなっていくの

か、自分の住む町のことをしっかり考えてみたくて傍聴した。

最初の議会は、旧町のこ とばかりの内容を議員さんが質問し、過去のことばかりにこだわっていて、少し残念に思いました。こんなにも各町で議員さんの考え方が違うんだということも分かりました。

合併して一年を迎える今回の議会は、やはり内容も大きく変わり、うれしく思いました。議員さんひとりひとりが旧町の枠を越えて、美咲町のこれからを真剣に考え、質問されている姿に感動しました。住民ももっと意識を持ってまちづくりに協力していく必要があると思います。

町長さん、教育長さんの答弁は、迫力もあり分かりやすく、とても美咲町のことを考えておられ感動しました。美咲町の将来を住民も一生懸命考えていかないと申し訳ないです。反省しました。

議場は緊張感をもって

質疑応対において、声の発し方が小さい議員さんもいらつしやいました。事前的資料が進む議会。町民私たちがもっと傍聴し、緊張感を。議会は神聖な所で



傍聴席から見た議場

す。議場内の緊張感がもう少し欲しいと思います。

弱者の声をもっとこのような場へ持参し、地域がふれ合つ、生きがいのある美咲町になることを望みます。若いも若きも、助け助けられた輪の美咲町であつて欲しいと思いました。

身近に感じた議会

傍聴はもっと手続きとか大変かと思っていました。が、非常に簡単で、出入りも自由に議会が身近な場所に感じられました。

あらためて、私自身、こういった場を別世界のようにとらえていたことを反省し、傍聴するのに抽選が行われるほど大勢の町民が議会に興味・関心を寄せなければならぬのでは？と思いましたが、議会の土日開催が頻繁にあれば（無理だとは思いますが）いいのになと思います。

あまりにも色々なことが急激に変化していき、対応していくのは大変で、町民に対して百パーセントの理解が得られることはありえませんが、あくまでも目標は高く、そこに近い相互理解を目指されることを期待しています。

編集後記

梅から、桜への移り行く季節の中、三月定例会が開会された。

桜の花の美しさを目で楽しみ、小鳥のさえずりを耳で楽しみ、美味しい季節料理に舌つづみを打つ。美味しいお酒にのどを鳴らし、全てを腹に入れて満足し、思考力も散漫になり、読者の皆さんに満足いただけるか、不安になりながら広報の編集作業、終えて発刊。

議会広報が、皆様の手元に届く頃は、素晴らしい春の日を満喫、何を聞いても、何を見ても、どかな気持ちになるよき時季と委員一同頑張っております。

(貝阿彌記)

議会広報編集特別委員会

委員長 岡田 壽

副委員長 日神山定茂

最上 忠

貝阿彌幸善

松島 啓

寒竹 壽

六十代 女性

三十代 女性

四十代 女性

四十代 女性